

UCG EXPERIENCE



吸気／排気用がセットされた「SEVビッグパワーセット シングル」(4万4100円)を装着。吸気用はご覧の通りインテークパイプへ。



こちらは排気用。作業を依頼した世田谷の「オートマックス」は原則としてSEV取付工賃が無料。今回の3アイテムで作業時間は10分程度だった。

体験レポート

「SEVで燃費は稼げるか？」

UCG編集部がクルマに関するあれこれを身をもって体験する「UCGエクスペリエンス」。第一回目は、巷で話題の「SEV」の巻きです。

ガソリンの価格が上昇を続けている。今やレギュラーでも1リッター150円、ハイオクに至っては160円超。輸入車はハイオクガソリンが指定されていることが多いから、満タンにしたら福沢諭吉(1万円)がヒラヒラと旅に出ていってしまうことも珍しくない。10年ほど前にハイオクガソリンが1リッター100円程度だったことを考えれば、クルマに対してこだわりを持つUCG読者には痛手だ。だからといって、日本製コンパクトカーに買い換えるのも、なんだか寂しい決断ではないか。

それなら、愛車はそのまま燃費を良くする方法はないか、ということになる。カーショップには省燃費グッズコーナーが設けられているが、正直なところ、どれほどの効果があるのか疑問も多い。そんななかで、今回紹介するのは「SEV」だ。かつて筆者が「自動車工学」というメカニック向け専門誌

でテストして、効果が体感できた数少ない商品の一つなのだ。

「吸気パイプやマフラーにホースバンドで巻くだけでパワーが向上する」。こう聞くと、誰だって信用はしないものだ。だが、その効果を一度でも体感してしまった人はその魅力に取り憑かれる。SEVはこうして脈々とファンを増やしているのだ。そんな、チューニングパーツとして認識されてきたSEVだが、現在は冒頭で語ったように燃費が気になる時代。よって今回は、SEVの燃費に対する効果を試すことになった。

取り付けしたのは、吸気／排気パイプに巻く「SEVビッグパワーセット シングル」と、オイルパンやエンジンブロックのクランクシャフト付近に貼り付ける「SEVクランクC1」「SEVクランクC2」の3製品。

SEVビッグパワーシリーズは、自動車用としての



テストカーは走行5000kmあまりのシトロエンC6。

SEVの名を世に知らしめたステージ1セットと一見同じようだが、花崗岩と特殊金属によって電子を出して吸気パイプとマフラー内の抵抗を減少させる効果がさらに高められているという。これまでは吸排気のセット使用が基本だったが、ビッグパワーは吸気だけの単品でも効果が発揮できるのが特徴だ。

いっぽうSEVクランクシリーズは、コンロッドからクランクシャフトにかかる力を軽減させてエンジン本来の能力を発揮させるもの。エンジン内部を見ることはできないが、クランクシャフトにかかる圧力は想像を絶するほど大きなもので、実際にはわずかに歪むほどの圧力を受けているのだ。このことはエンジンの振動、つまり静粛性に大きく影響してくる。SEVクランクC1は低中速回転時、C2は中高回転時に効果を発揮するもの。片方だけでも効果を体感できるようだが、両方を装着すればエンジンの全回転域で振動や雑音が減少してスムーズになる。

さっそくテストカーのシトロエンC6に装着すると、たしかにエンジンの振動が減り、アイドリングの音質がクリアになって回転落ちも早くなった。走ってもトルクのツギが良くなった感じで、早くもその効果を体感。でも、今いちばん気になるのは燃費。現状では日常使用で6.4km/ℓほどだが、今後どう変化するのか。近いうちに報告したい。

Text: 竹 志夫 / Photo: 丸山博人



(上左)注目の新製品「SEVクランク」。まず「C-1」(低中回転域用。2万5200円)をオイルパン下面に装着した。(上右)「SEVクランク C-2」(中高回転域用。2万7300円)はよりクランクシャフトに近い位置に。(中左)装着直後のアイドリングにて早くも効果を体感。左は「オートマックス」代表取締役の坂本正幸氏。(中右)トルクのツギや吹け上がりの軽さ、スムーズさを確認。エンジン内部抵抗の軽減により燃費向上の期待大。(下左)シトロエンC6の燃費計。装着前の平均燃費は15.6ℓ/100km、すなわち6.4km/ℓ。1~2ヵ月走らせて観察する。

取材協力=株式会社オートマックス
世田谷の環八内回り、東名東京インター手前にある輸入中古車店/SEVスペシャルショップ/SEV船舶用総発売元。SEVはクルマや船舶用ばかりでなく健康/医療用の取り扱い実績も豊富。
東京都世田谷区上用賀5-24-8 Tel.03-3706-1411 <http://www.automaxinc.net>